



日本シイエムケイ株式会社  
(証券コード：6958)

# 2017年3月期 決算説明会資料

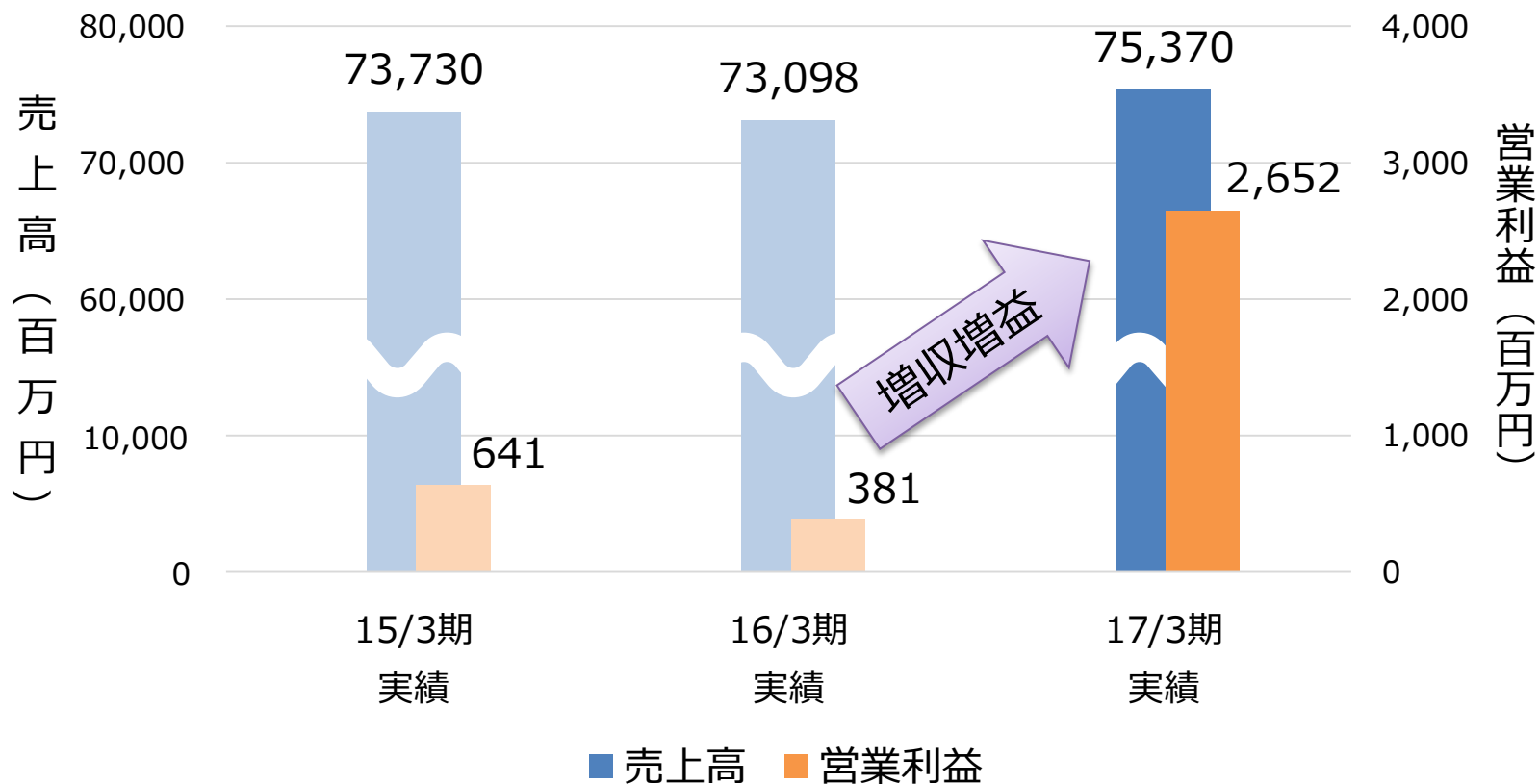
2017年 5月24日  
日本シイエムケイ株式会社

1. 2017年3月期 連結業績
2. 2018年3月期 連結業績見通し
3. 中期経営計画 進捗状況
4. 車載基板市場の動向および  
当社位置づけについて
5. 補足資料

# 1. 2017年3月期 連結業績

# ①決算のポイント

- 主力の車載向けで計画を上回る売上を達成
- 国内の経営合理化、海外の収益改善取組により、営業利益が大幅改善



## ②連結損益



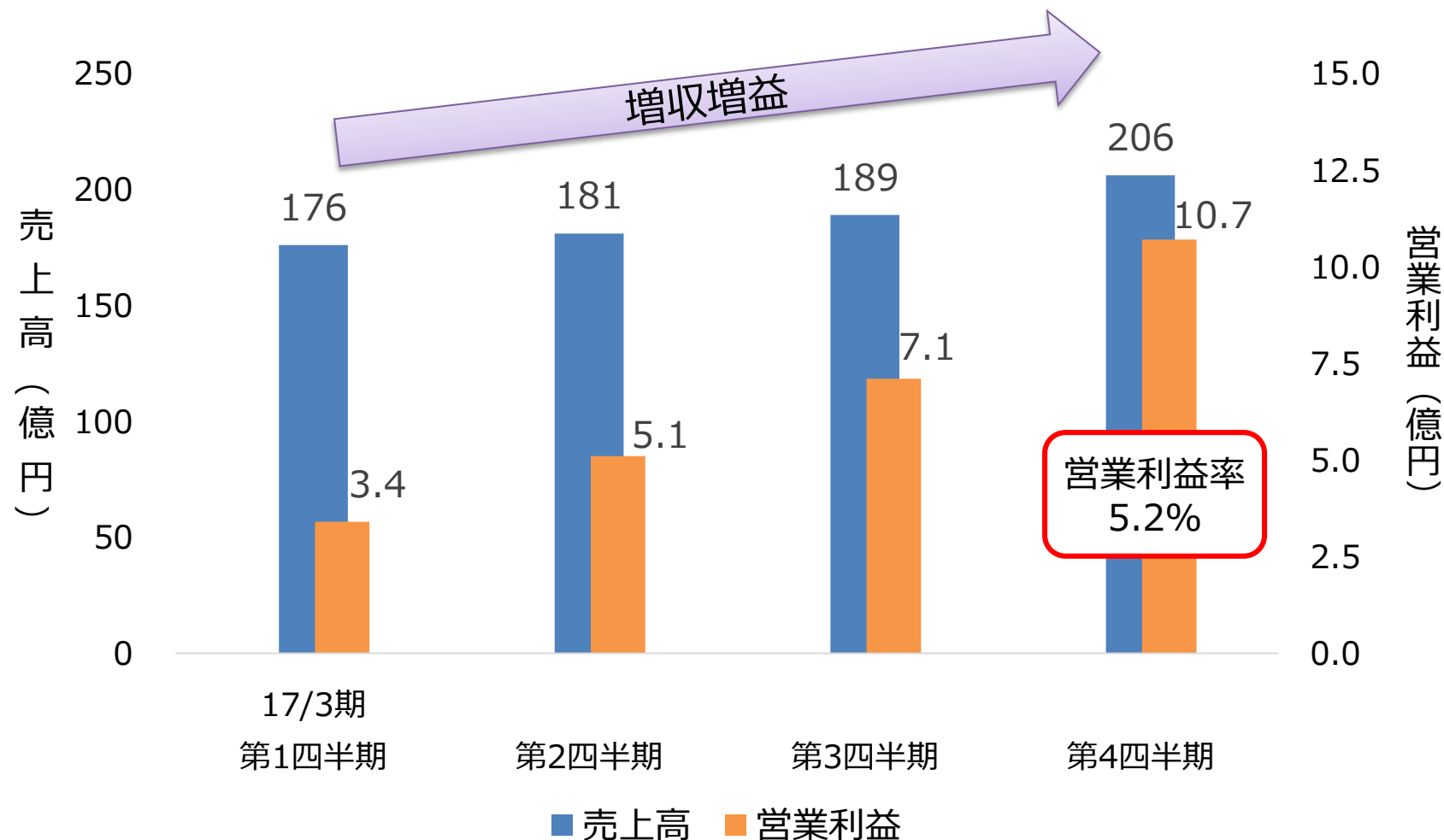
全利益項目において、計画を達成

(単位：百万円)

	16/3期 実績	17/3期 実績	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	計画	増減
売上高	73,098	75,370	+2,272	+3.1%	77,000	-1,629
営業利益	381	2,652	+2,270	+594.9%	2,500	+152
率	0.5%	3.5%	+3.0%		3.2%	+0.3%
経常利益	▲628	2,628	+3,257	-	2,100	+528
当期純利益	▲8,122	2,153	+10,276	-	1,600	+553
為替レート (USD/JPY)	121.04	109.28	-11.76	-9.7%	115.00	-5.72

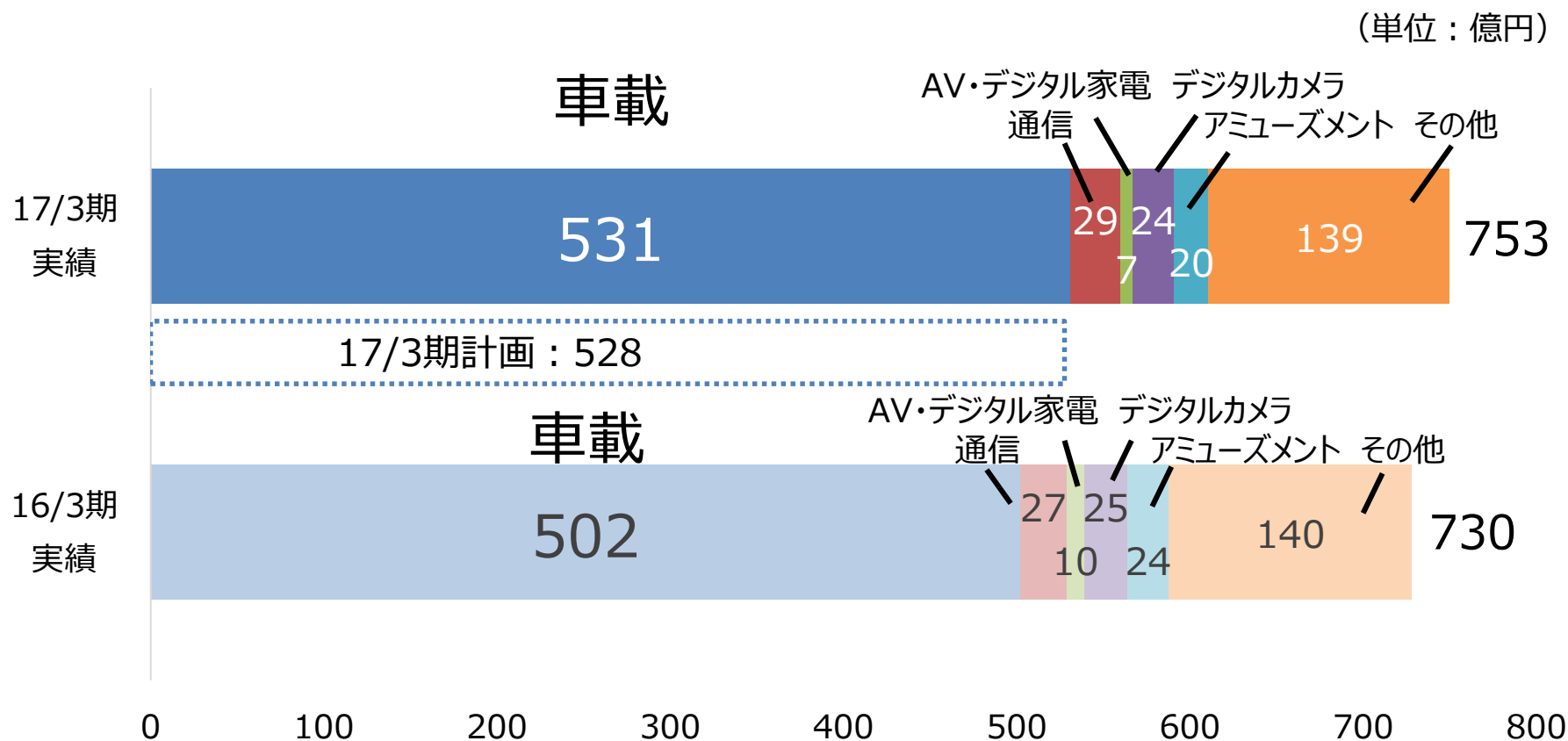
※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載 5

## ③ 連結損益 四半期推移



車載向けを中心とした販売拡大に加え、経営合理化策の進展や生産性向上などにより、着実に収益性が向上

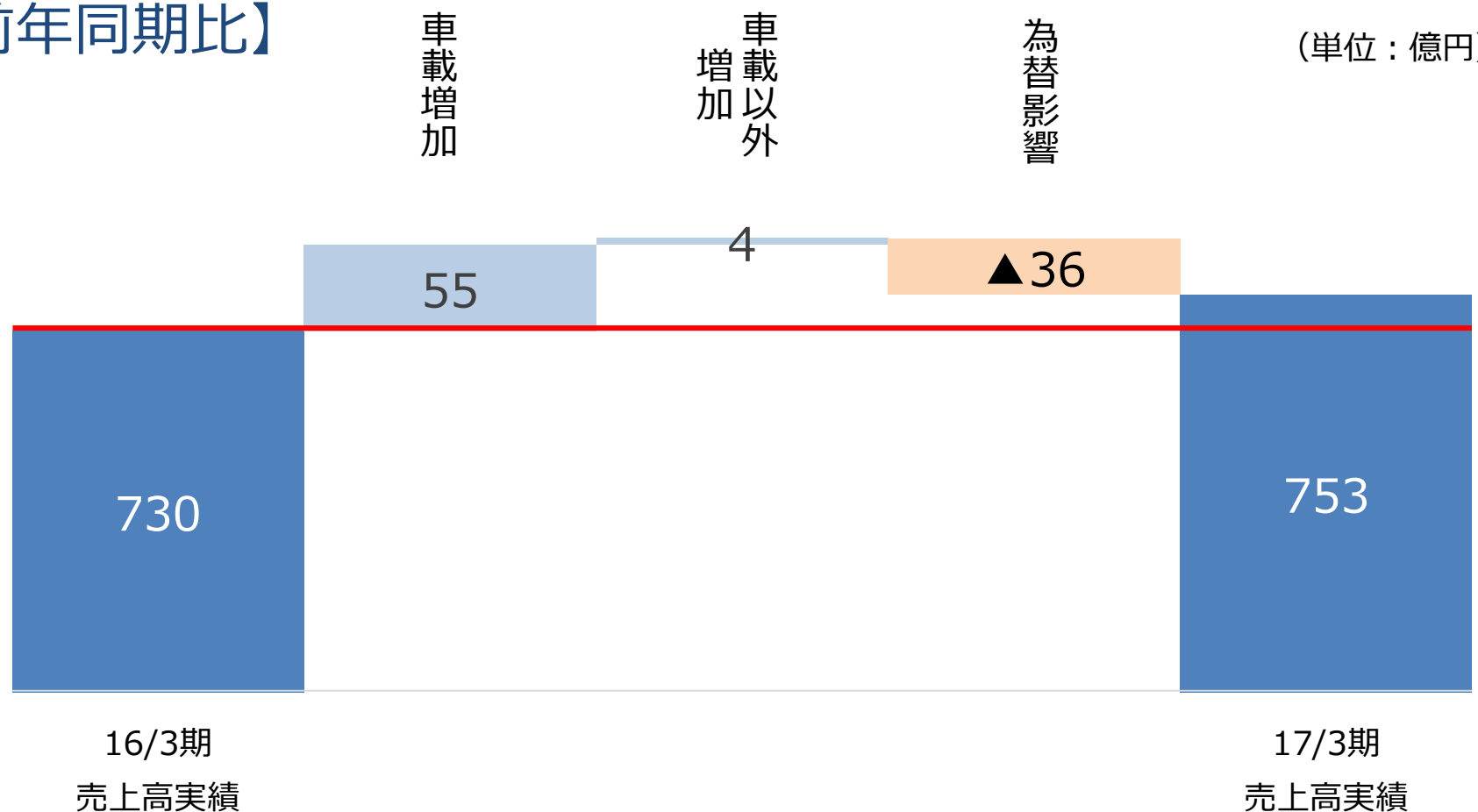
## ④用途別売上高



円高による売上高目減り影響はあったものの、好調な車載向けが想定を上回って増加し、全体の売上に貢献

## ⑤売上高増減分析

【前年同期比】



現地通貨ベースでは、前年同期比8.0%の増加であり、計画達成



## ⑥国内 経営合理化

### ■内容 (2016年9月末完了)

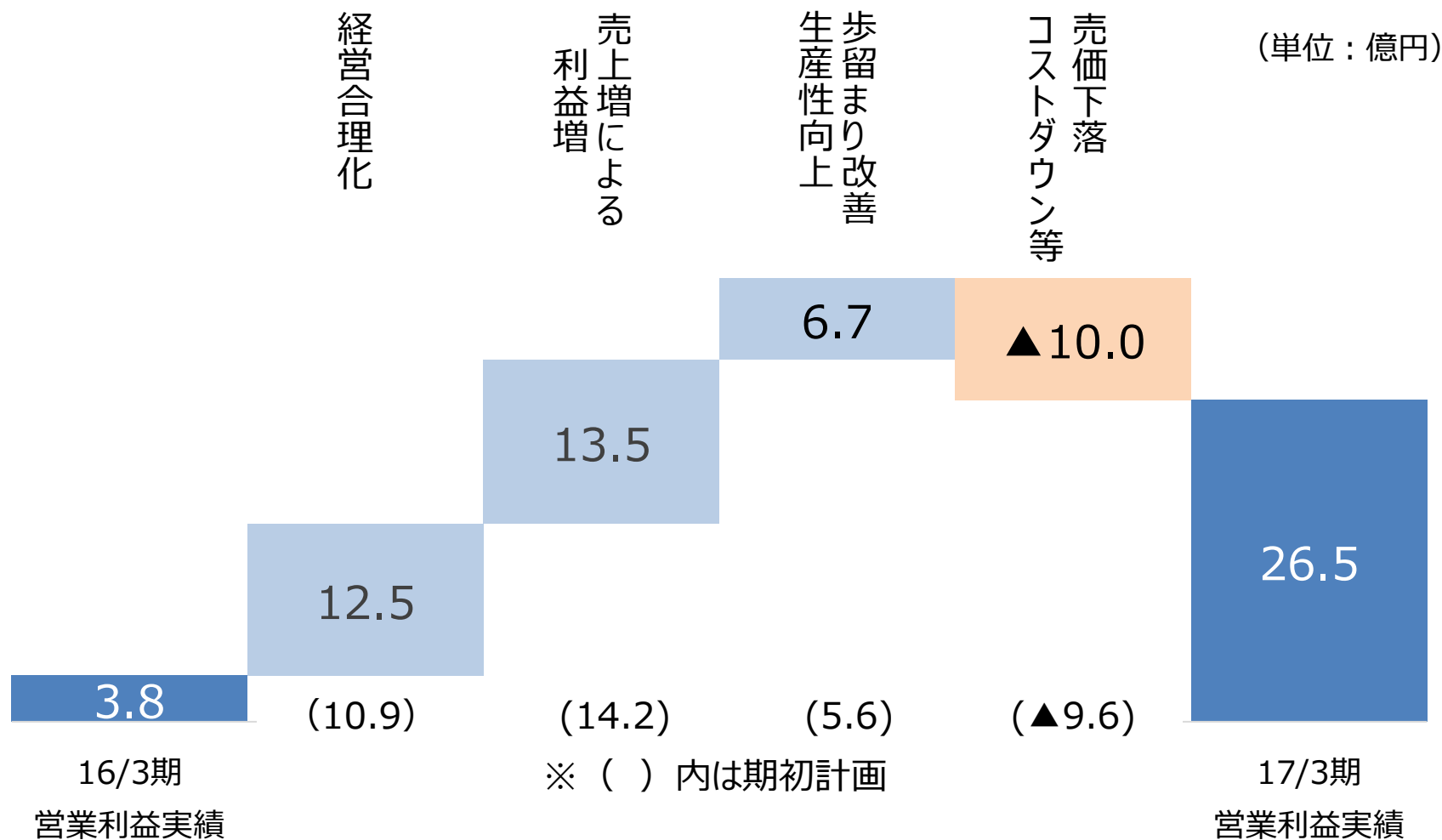
- ① 国内生産拠点の集約 (群馬工場の生産停止)
- ② 希望退職者の募集 (応募人数247名)

### ■利益効果 (実施前比較)

(単位：億円)

	16/3期	17/3期			17/3期
	通期	上期	下期	通期	通期計画
人件費削減	2.6	7.0	7.5	14.5	15.0
減価償却費減少	2.8	2.2	2.2	4.4	4.4
その他 (追加費用含む)	▲0.7	▲2.6	0.9	▲1.8	▲3.8
合計	4.8	6.6	10.5	17.1	15.6

## ⑦ 営業利益増減分析



経営合理化による固定費削減、売上増による利益増などにより、  
収益が大幅に改善

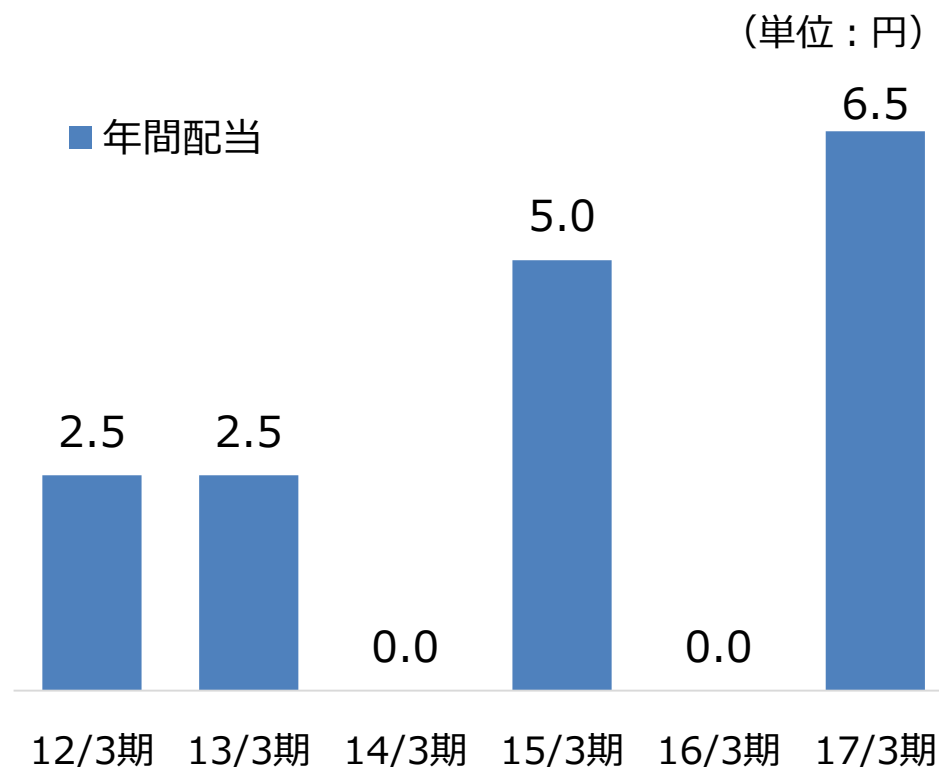
## ⑧ 配当金

### ■ 基本方針

経営体質の強化と将来の事業展開のために必要な内部留保を確保しつつ、業績や財務状況等を勘案した上で、安定的な配当を継続して実施。

### ■ 配当金

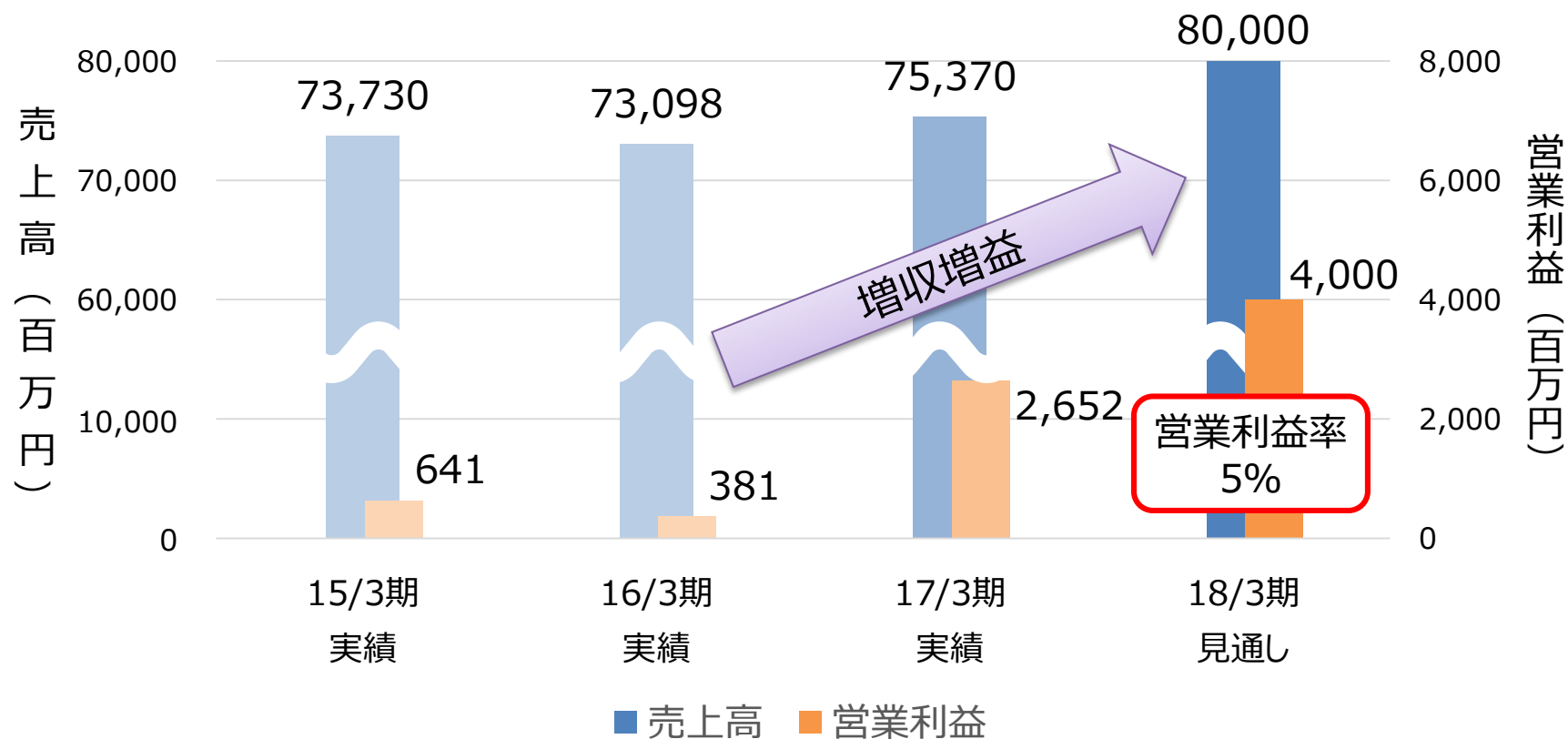
17/3期  
年間配当  
(1株あたり) **6.5円**



## 2. 2018年3月期 連結業績見通し

## ①見通しのポイント

- 好調な車載向けを中心に更なる販売拡大を見込む
- 国内の生産性向上、海外の生産能力増強等により、営業利益率5%を見込む

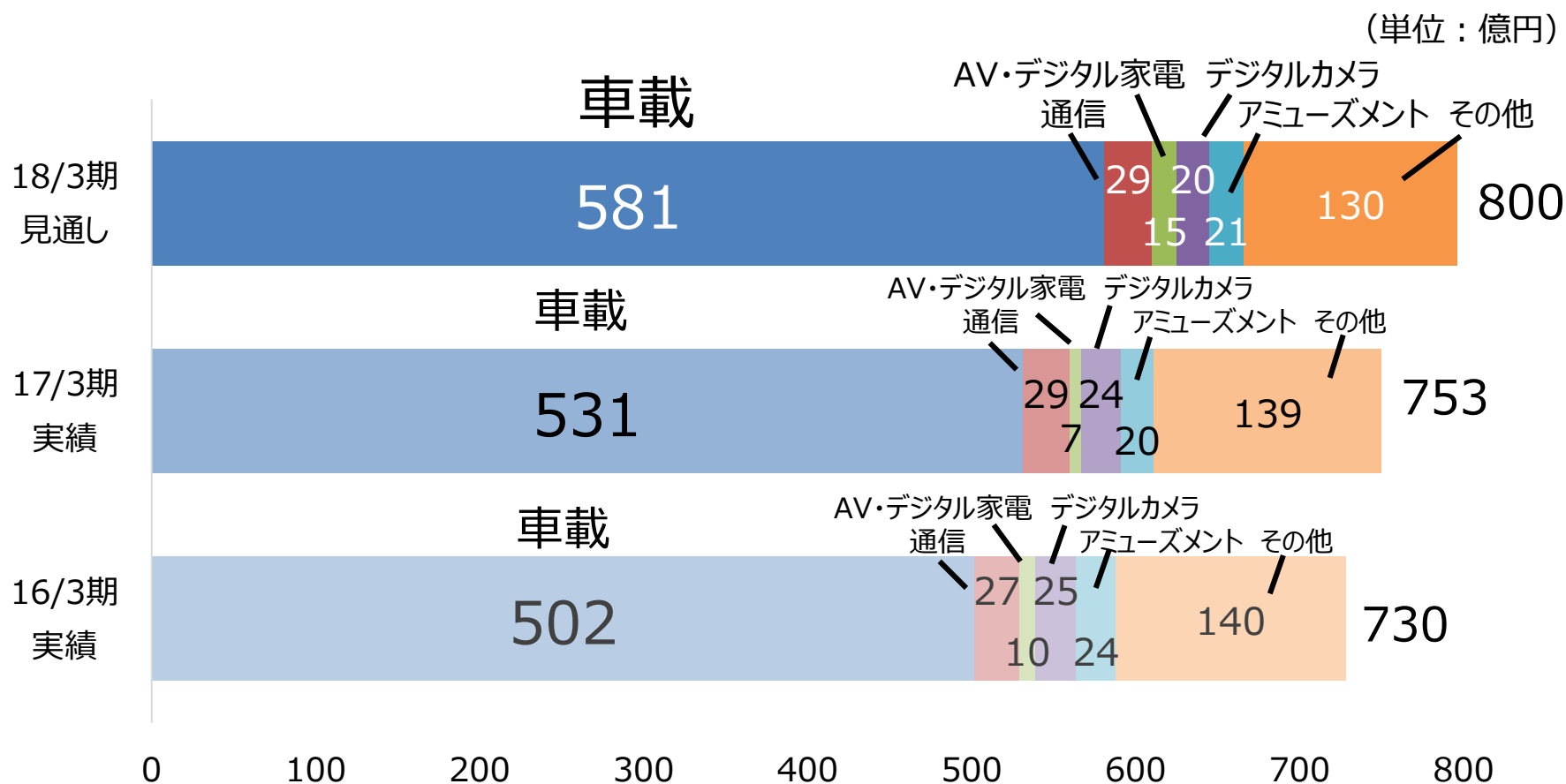


## ② 連結損益

(単位：百万円)

	16/3期 実績	17/3期 実績	18/3期 見通し	前年同期比	
				増減	増減率
売上高	73,098	75,370	80,000	+4,629	+6.1%
営業利益	381	2,652	4,000	+1,347	+50.8%
率	0.5%	3.5%	5.0%	+1.5%	
経常利益	▲628	2,628	3,700	+1,071	+40.7%
当期純利益	▲8,122	2,153	3,000	+846	+39.3%
為替レート (USD/JPY)	121.04	109.28	110.00	+0.72	+0.7%

### ③用途別売上高



引き続き車載向けが好調に推移し、全体の売上を押し上げる見通し

## ④利益拡大施策 ～海外生産能力増強～

### タイ



### CMKタイ (両面・多層貫通・ビルドアップ)

- ・ 車載中心に受注が旺盛な状況
- ・ 17/3期、前期比30%の生産能力増強完了
- ・ 18/3期、更に30%の生産能力増強予定  
(内、6割程度は17年5月末で完了予定)

### 中国



### CMK無錫 (ビルドアップ)

- ・ 車載向けでビルドアップ配線板の採用が増加
- ・ 18/3期、最大で30%の生産能力拡大予定



### 旗利得電子 (両面・多層貫通)

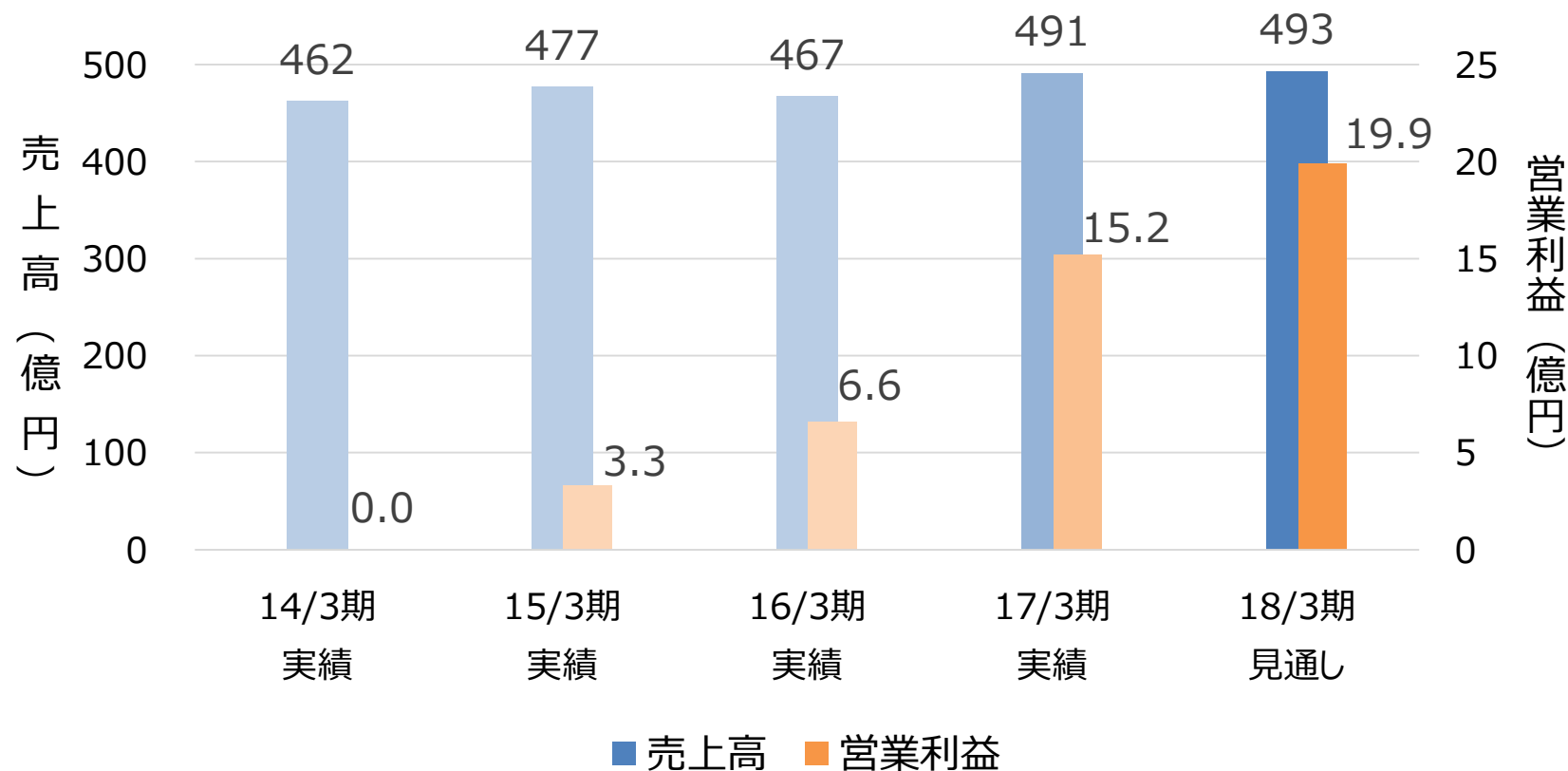
- ・ 車載向け工場で、フル稼働状態が継続
- ・ 自動化、品質向上投資等により生産量増加



## ⑤利益拡大施策 ～国内生産性向上～

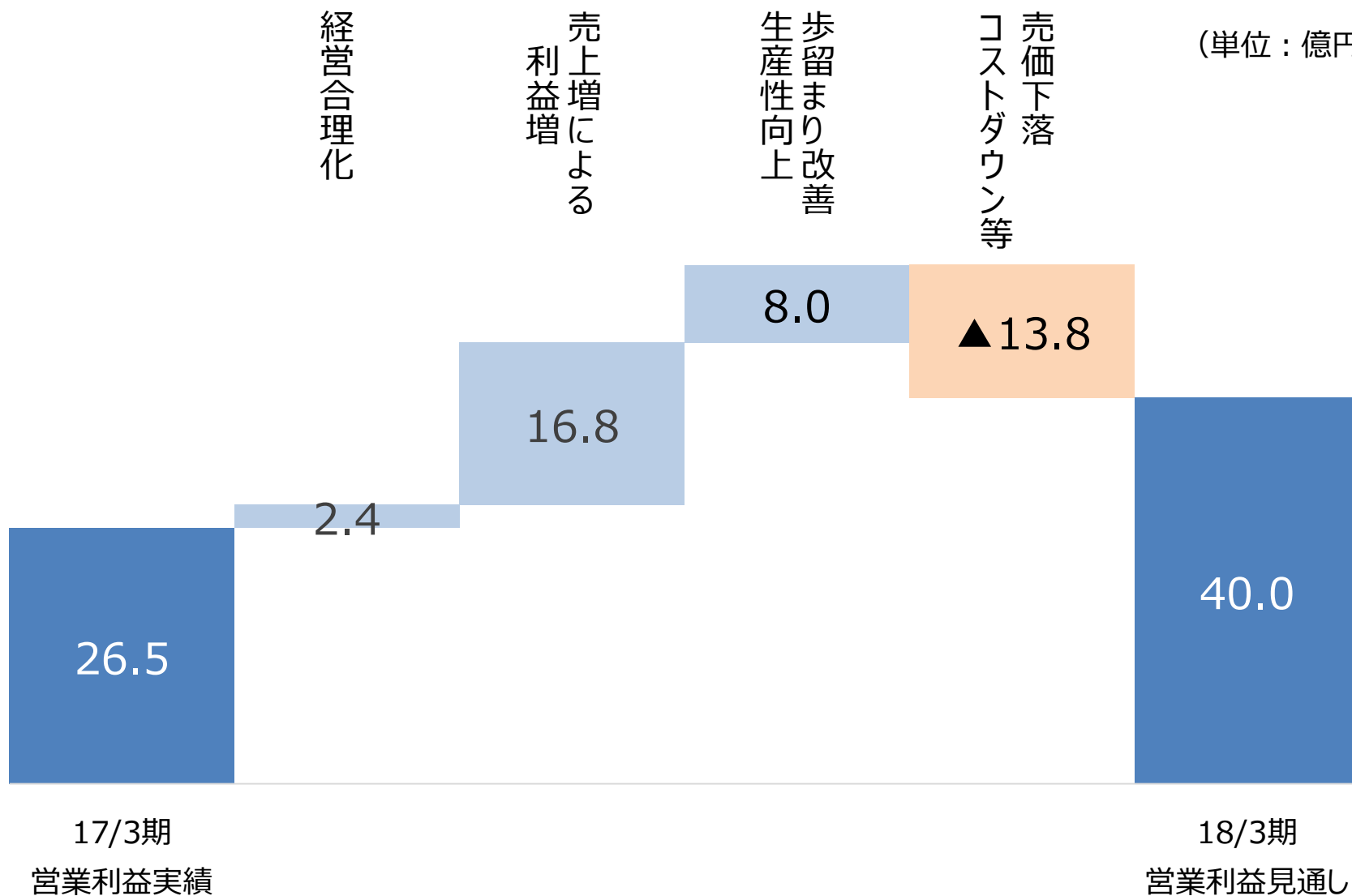
- 17/3期、生産拠点集約により国内工場全体の固定費を削減
- 18/3期、新潟工場を中心とした主要工程ごとの生産効率向上活動に注力  
⇒ 将来的には、新潟工場の取り組みを海外工場へ移植予定

### 国内損益推移



# ⑥ 営業利益増減分析

(単位：億円)



## 3. 中期経営計画 進捗状況

## ①中期経営計画 概要 (2015年5月25日発表)

### ■中期経営方針

- ◆経営基盤の盤石化から成長路線へ
- ◆車載基板市場での競争優位確立

### ■重点施策

- ◆車載及び通信デバイス市場、  
海外での売上拡大
- ◆生産力の強化
- ◆コスト対応力の強化
- ◆品質力の強化

## ②損益見通し



18/3期は、中期経営計画の営業利益率・当期純利益を維持

(単位：億円)

	中期経営計画 (2015/5/25発表)			実績及び見通し (2017/5/24時点)		
	16/3期	17/3期	18/3期	16/3期 (実績)	17/3期 (実績)	18/3期 (見通し)
売上高	750	820	900	730	753	800
営業利益	15	25	45	3	26	40
率	2.0%	3.0%	5.0%	0.5%	3.5%	5.0%
当期純利益	7	16	30	▲81	21	30
ROE	1.2%	2.9%	5.0%	▲15.9%	4.5%	6.1%
為替レート (USD/JPY)	115.00	115.00	115.00	121.04	109.28	110.00

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載 21

## 4. 車載基板市場の動向および 当社位置づけについて

## ①車載基板市場の中長期動向 (当社認識)

### 1. 新車販売台数の増加

- 2010年以降、新車販売台数は右肩上がりで増加
- 今後も新興国需要等に支えられ、市場拡大が継続

### 2. 環境対応による次世代自動車の普及

- 自動車の燃費規制は、EU及び米国をはじめ各国強化の流れ
- PHVやEVなどの次世代自動車へのシフトが想定される

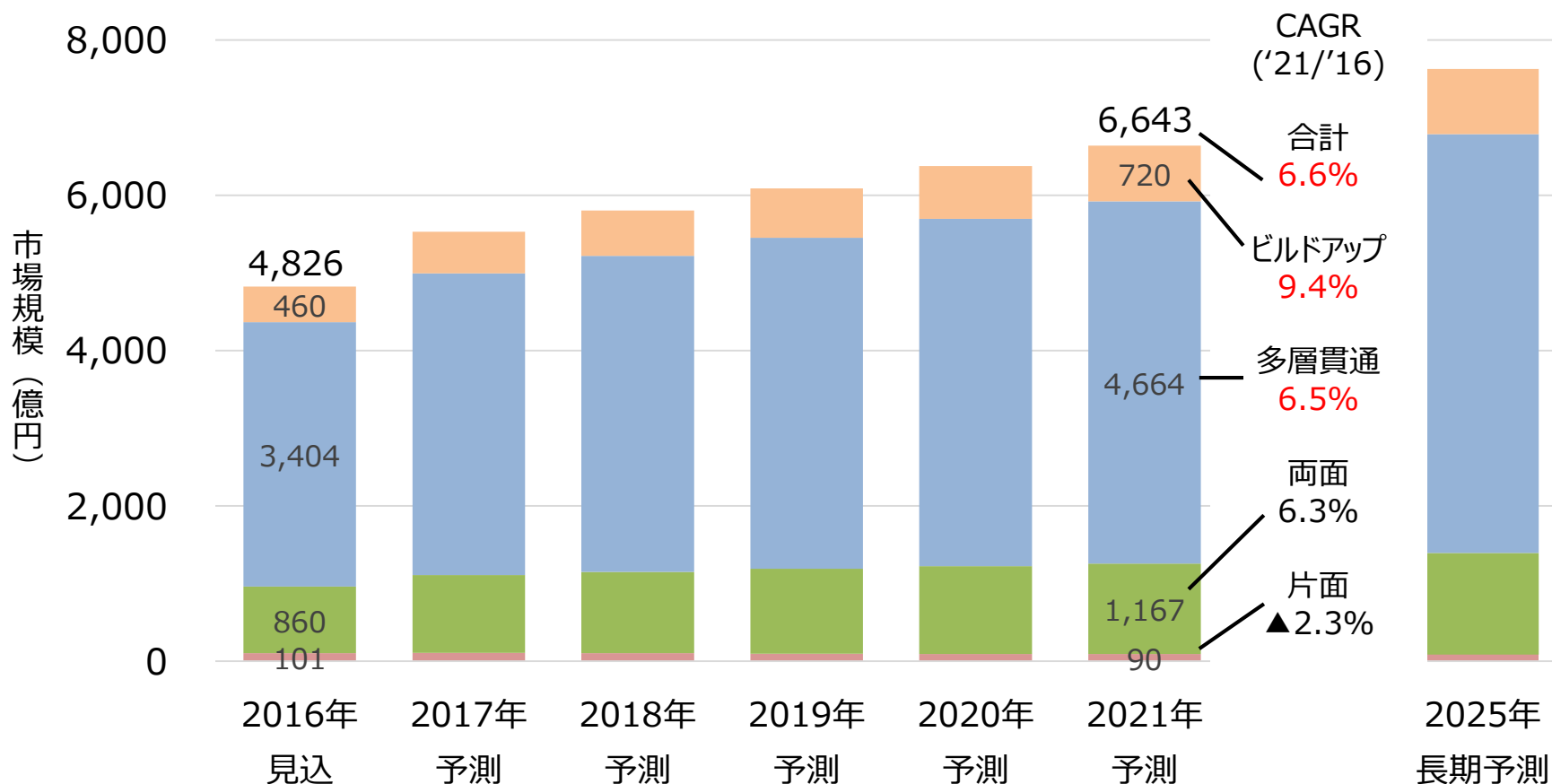
### 3. 先進運転支援システム(ADAS)の普及

- 予防安全・運転支援のニーズの高まりから、ADASが普及拡大
- 将来的には自動運転へ進展

**新車販売台数の拡大 + 基板搭載量の増加により、  
車載基板市場は、今後ますます拡大**

## ②市場規模予測

### 車載向けリジット基板 市場規模予測



多層プリント配線板・ビルドアップ配線板などの高付加価値品の需要増加により  
新車販売台数の伸び以上に車載基板市場が拡大する見込み

※CAGR(Compound Average Growth Rate) : 年平均成長率

※出所:「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査2017《下巻: ECU関連デバイス編》」富士キメラ総研より当社作成



# ③基板用途とECU市場規模見通し

## ECU市場規模

	2016年 見込	2021年 予測	CAGR
<b>ボディ系ECU</b>			
	2.6兆円	3.2兆円	4.8%
<b>情報通信系ECU</b>			
	1.7兆円	2.2兆円	5.1%
<b>パワートレイン系ECU</b>			
	0.9兆円	1.3兆円	<b>7.0%</b>
<b>HV/PHV/EV/FCV系ECU</b>			
	0.1兆円	0.3兆円	<b>19.7%</b>
<b>走行安全系ECU</b>			
	1.9兆円	2.7兆円	<b>6.7%</b>
<b>スマートセンサー/アクチュエーター</b>			
	0.6兆円	1.3兆円	<b>13.8%</b>

### 情報系

ナビゲーション、バックモニタ、高度道路交通システム等



### ボディ系

ヘッドライト、メーターパネル等



### 快適系

カーエアコン、ミラー制御、パワーシート、サンルーフ等



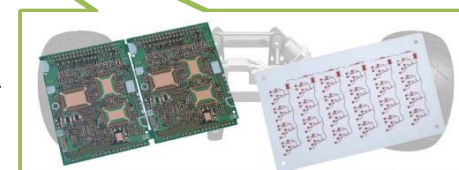
### パワートレイン系

エンジン制御装置、電圧交換装置等



### 走行安全系

ブレーキ制御、横滑り防止装置、エアバック、衝突防止レーダ、車載カメラ、空気圧センサ等

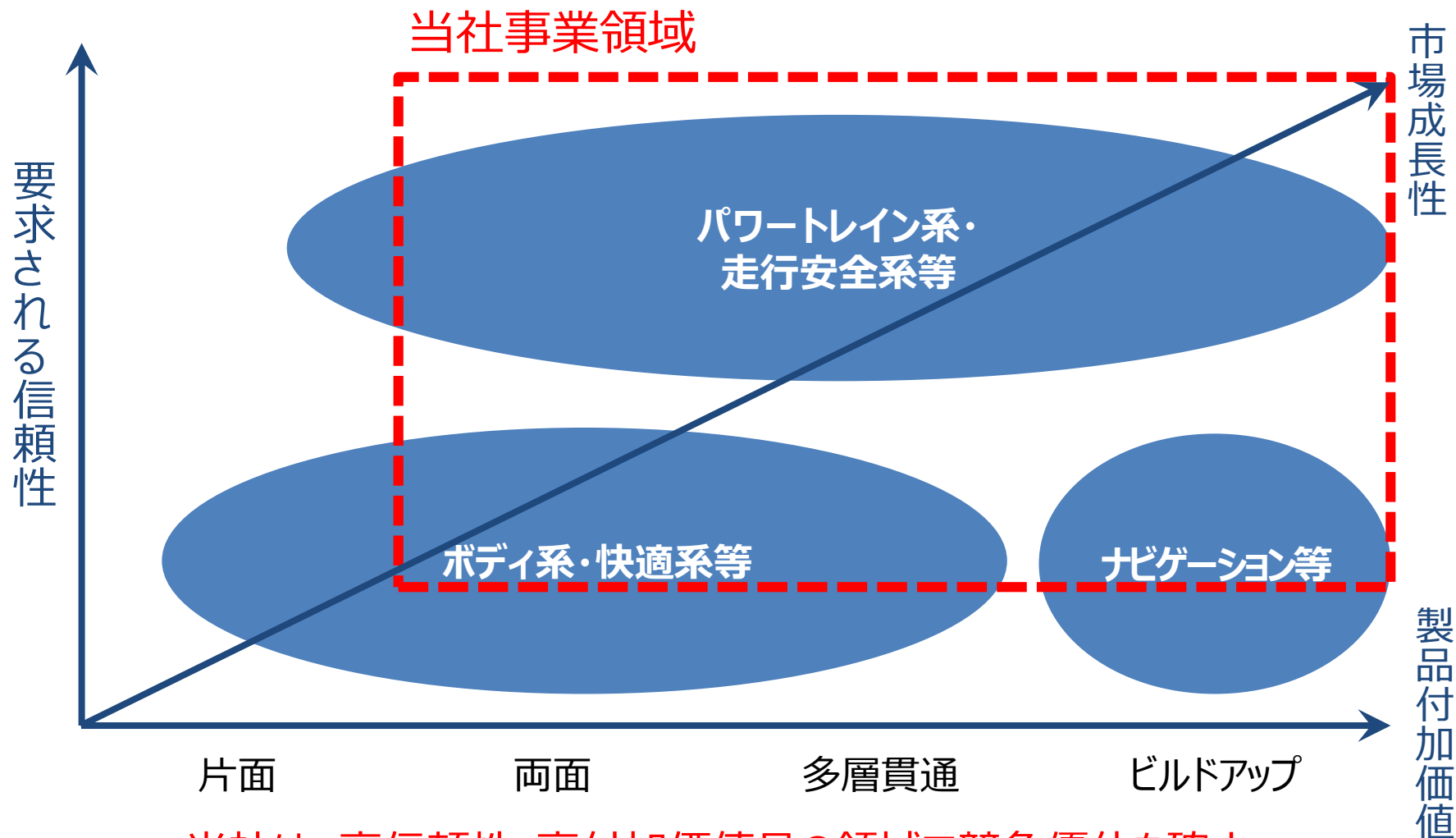


## パワートレイン系・走行安全系のECU市場規模が大きく拡大

※CAGR(Compound Average Growth Rate) : 年平均成長率

※出所 : 「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査2017《下巻: ECU関連デバイス編》」富士キメラ総研より当社作成

## ④ 車載基板市場での当社位置づけ



当社は、高信頼性・高付加価値品の領域で競争優位を確立。  
同領域は、次世代自動車・ADASの普及等により拡大する見通しであり、  
更なる販売拡大を見込む。

## 5. 補足資料

## ①基板種類別売上高



(単位：億円)

	16/3期 実績	17/3期 実績	前年 同期比	18/3期 見通し	前年 同期比
ビルドアップ配線板	207	218	+11	235	+16
多層プリント配線板	296	319	+23	357	+38
両面プリント配線板	141	142	+1	129	-13
その他	86	72	-13	76	+4
合計	730	753	+22	800	+46

## ②地域別業績



(単位：億円)

	16/3期 実績		17/3期 実績		前年同期比	
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益
日本	467	6.6	491	15.2	+24	+8.6
中国	225	▲0.9	227	9.9	+2	+10.8
東南アジア	160	0.0	169	4.3	+9	+4.3
欧米	55	2.3	53	2.4	-2	+0.0
計	908	8.1	942	32.0	+34	+23.8
消去又は 全社	▲177	▲4.3	▲189	▲5.5	-11	-1.1
連結	730	3.8	753	26.5	+22	+22.7

	18/3期 見通し		前年同期比	
	売上	営業 利益	売上	営業 利益
	493	19.9	+1	+4.6
	277	16.8	+49	+6.9
	210	6.7	+40	+2.4
	54	3.1	+0	+0.7
	1,034	46.7	+92	+14.7
	▲234	▲6.7	-45	-1.2
	800	40.0	+46	+13.4

## ③設備投資



(単位：億円)

	16/3期 実績	17/3期 実績	前年 同期比
国内	12	17	+5
海外	18	28	+9
連結	31	46	+14

	18/3期 見通し	前年 同期比
国内	21	+3
海外	38	+10
連結	60	+13

減価償却費	49	41	-7
-------	----	----	----

	42	+0
--	----	----

本資料における将来情報は、2017年5月時点での見通しであり、  
その実現を保証するものではありません。

(金額は切捨て、%は小数第二位を四捨五入にて表示)

END